



区政区議会報告・地域情報を週刊で発行しています。ご意見をお寄せください。

日本共産党荒川区議会議員
斉藤くに子
区政ニュース

メール: arajcp@tcn-catv.ne.jp 区議会 http://www.jcp-arakawakugidan.jp/
くに子ブログ http://s-kumiko.jugem.jp/



2024年3月31日 No.1351号

区役所直通 3802-4627

fax 3806-9246



★無料法律・生活相談会★

弁護士の定例相談は毎月第4月曜18時～

4月22日(月)

★北千住法律事務所での直接の相談予約も取ります。

★生活困窮は随時随時に対応します。ご連絡ください。

荒川区荒川7-37-1(コミバス花の木停留所前)

Tel.Fax 3806-5134

定例法律相談は予約制として密の状況をつくらないようにしたいと思います。

宜しくお願い致します。

①18:00～18:30

②18:40～19:10

③19:20～20:00

事前にご連絡ください。

これでいいのか荒川区の行財政

駅前再開発にはお金がつく?

(単位:千円) 2023年度予算 2024年度予算

土木費(都市計画費)	4,571,155	2,065,112
都市計画審議会	829	831
住宅資金融資	20,494	17,455
都市防災不燃化促進	21,365	26,131
駅前再開発	751,600	2,889,300
分譲マンション対策費	2,080	1,029
土地利用現況調査	5,672	5,634
バリアフリー整備	439	441
魅力ある都営景観	2,521	2,538
耐震化推進	138,502	101,292
空家対策	47,876	40,959
コミバス関連費	27,887	3,191
永久水利整備	12,691	143,430
不燃化特区整備	949,251	1,275,718

再開発 28億9千万円	耐震化促進 1億円
(三河島駅前北地区 22億3千万円)	コミバス 300万円
(西日暮里駅前再開発 6億6千万円)	住宅融資利子補給等 1700万円

能登半島地震も受けて改めて、防災対策が問われています。また、コミバス町屋さくらの復活と減便の見直しを求める声が広がっています。

こうした予算が土木費:都市計画費に計上されていますが、全体の3割を占めているのが三河島や西日暮里駅前再開発事業で、事業の進捗に合わせて何と21億3千万円の増です。

一方、木造建物耐震化などの耐震化推進事業費は約1億円で、新年度は3700万円のマイナス予算です。

簡易耐震工事の助成、区内事業者と連携した低コスト工法の導入など区民の命を守るためにやれることはすべてやるという姿勢を持ち予算の抜本的な拡充が必要でした。

また、コミバス関連はたったの300万(新しい移動手段検討)です。現在のさくら・汐入さくらも減便で利用者が減ってしまいます。このままなら町屋さくらに続いて、撤退してしまわないか心配です。

日本共産党は時刻表や現在のルート大幅見直し・子どもからお年寄りまで気楽に乗れる料金設定などの提案も行っています。

停留所や休憩所の改修を行ったことが無駄にならないように、区民の移動の自由の保障もために、区が財源も責任を持ち対応することを求めています。

コミバス2023年度
予算2700万円

町屋区民事務所移
転に伴って、乗務員
の休憩所を荒川公園
の展示場に移動。

その改修や停留所
の改修経費

暮らしの土台である住宅支援はお粗末

住まいの確保は、生活の土台です。しかし日本は自己責任、持ち家政策が続いています。

区民住宅事業費 89,938 荒川区の予算を見ても区民住宅(中堅所得世帯向け住宅:都営住宅募集事務費 93 町屋5丁目)と区営住宅(高齢者用区営住宅5棟)の管理運営と、区営住宅事業費 171,430 民間賃貸住宅への転居が困難な高齢者世帯に対し、保証料民間賃貸住宅活用事業費 14,453 補助や家賃の差額助成などがあるだけです。

都営住宅も建替えや改修は行われていますが、新規建設は全くありませんから、なかなか当選しません。公的住宅の拡充を国都区あげて行うこと。そして、ひとり親への家賃補助や若者住宅支援なども検討すべきだと思います。

区の財政力を区民の暮らしに～予算組み替えを提出

①住宅耐震工事補助事業の拡充	2億円
②屋内安全対策 100%推進費	1億円
③住宅リフォーム助成	4,000万円
④区内中小事業者物価エネルギー高騰対策(光熱費助成)	5億円
⑤「(仮称)区内中小企業振興基本計画」策定経費	500万円
⑥ひとり親世帯の家賃助成	7,200万円
⑦エアコン購入助成	500万円
⑧高齢者補聴器購入助成費	7,500万円
⑨生活保護の法外援助 夏期手当	4,500万円
⑩高齢者住宅整備計画策定経費	500万円
⑪生理用品を区内公共施設トイレに常備	300万円
⑫保健所職員・保健師などの増員と定員化	7,000万円
⑬「保健センター」設置に向けた準備・調査費	500万円
⑭就学援助認定基準引上(1.2 から 1.5 倍)	4,057万6千円
⑮学用品公費負担	3億円
⑯0～2歳児の保育料完全無償化	5億1001万2千円
⑰「(仮称)子どもの貧困対策に関する計画」策定経費	4,000万円
⑱スクールカウンセラーの増員(12名)	5,400万円
⑲コミュニティバス運行経費補填	1億円
⑳区内公共交通総合政策策定	500万円
㉑公契約条例策定経費	500万円

合計

21億7,958万8千円

日本共産党区議団は予算特別委員会に左表のように21項目総額21億円規模の予算組み替え案を提出しました。

内容は、学用品無償化、補聴器助成上限10万引上げ、住宅耐震化・屋内安全対策補助抜本拡充、エアコン助成、事業者水光熱費補助などです。

財源は、庁舎基金や大規模駅前再開発見直しなど歳出削減で約16億円・財政調整基金から5億7千万円です。予算の1.7%組み替えて実現出来る提案で

したが与党会

派は反対しま

した。切実な

区民の声は、

学校給食無償化のように必ず区政を動かします。区民要求実現に力を尽くします。



特別支援学級に通う子どもたちの移動支援の充実を



通学児童数	
汐入	19
六瑞	28
八太	33
尾久西	22
大門	17
合計	119



通学生徒数	
一中	31
三中	8
四中	21
八幡	21
合計	81

「特別支援学級」は障害のある児童・生徒さんの、一人ひとりの学習や生活上の困難さに寄り添って支援し、少人数学級で義務教育を受ける権利を保障する場です。

小学校は区内に24校で、特別支援教室が設置されているのは5校だけ。

中学校は10校で、支援学級設置校は4校です

小学校119名のうち、登下校時の移動支援利用は65名(うち登下校両方利用18名) 其他のご家庭は保護者が付き添い。

中学校では81名中、登下校のヘルパー利用が7名。中学になると多くが自立

障害があり自力での通学が困難で、保護者が仕事等で送迎が難しい児童生徒に対し、通学ガイドヘルパーを派遣して、児童・生徒の自宅と学校間の往復等、通学のための移動支援を行っています。

サービス供給は、区内(区外の場合もあり)の居宅介護事業所が行っていますが、他の在宅介護のためのヘルパー派遣が主な事業となりますので、通学支援を行うための人の確保が大変になっています。移動支援のヘルパーが見つからないことで、保護者の就労に支障が出てくるケースもあります。

文京区では移動支援従事者養成研修を、補助金を出して、区内法人の依頼。2か所年6回開催し100名程が毎年受講。台東区でも区内法人「ほうずきの会」の年3回研修を委託。荒川区では、4月から「障害者福祉サービス人材確保事業」として、72万円の予算をつけ、東京都が案内している研修に参加した場合に、その受講料を支払うことになった。

しかも、支援を行うヘルパーの手配は保護者が直接、事業所に連絡しているようで、これも一苦勞だと思えます。

そもそもヘルパー全体が不足している状況で、供給体制を強化するためには、介護報酬の引上げや、区独自の加算などが必要です。

義務教育ですので、人が手配できないから学校は休ませてくださいと言うわけには行かないと思います。障害福祉課と教育委員会

が連携して、安心して安定的に通学支援が出来る体制を構築することが求められます。



4月入園入学進級就職…新しいスタートです。

私も区議会議員10期目となって1年が過ぎ、4月には締め括りの閉会会議があります。

そして5月29日には2024年度をスタートする開会会議が行われ、委員会体制などが決定することになります。

マンネリに陥らずいつも新鮮な気持ちで、取り組んでいきたいと思えます。

さて左の絵は雑誌「ちいさい仲間」4月号の「新入園はわからないことだらけ」から抜粋しました。

先日、超久しぶりに2才の孫のお世話をしました。「着替えて保育園だよ」「ヤダ! まだ!」「くにちゃんお仕事遅れちゃうよ」「まだ!」「パジャマのまま行く? お外寒いよ(ドアを開けてビュービュー風を)」 やった~着替えた~髪の結び方、ゴム(シュシュ)はどれに? でまたまた時間が~おむつも変えないと言う~

諦めた。そのまま保育園に…「先生すみません。おむつ濡れたままです。髪の毛お願いします」保育士さんありがとう。保育園のお友達ありがとう。

「イヤイヤ期・自分で」を通過して子どもが自分の力で育っていくよね。

NHKの連続ドラマ「ブギウギ」(脚本・足立紳、桜井剛)が最終週を迎える。このドラマ、僕の中では「あまちゃん」以来のヒットだ。とにかく手放しに面白い。主人公スズ子が下宿の2階から飛び降りて逃げ出す場面など、腹を抱えて笑った。主役の趣里がものすごくいい。東京出身なのに完璧な関西弁。これがなかったらこのドラマはなかった。演技だけでなく歌もダンスもいい。「ラッパと娘」や「東京ブギウギ」など等置シツ子のヒット曲をステージで歌い踊る場面がたっさんあるが、ひよっとして等置本人よりいいんじゃないかとさえ思っ。

「ブギウギ」最終週

亡き母が若いころ「わてほんまによく言わんわ」と「買物ブギー」を口ずさんでいたのを思い出す。このドラマ、母にも見せてやりたかった。昭和の戦争が終わった時、「うれしい」と思った人たちと「くやしい」と思った人たちがいた。服部良一をモデルにした作曲家・羽鳥をはじめ、登場人物はすべて「うれしい」派だ。どん底から再出発した戦後の日本社会をウキウキワクワクと引っ張った。ところが今「くやしい」派の後継者たちが、日本を戦前に戻そうと画策している。暗い昭和ではなく、明るい昭和を思い出そう。新たな戦前ではなく、永遠の戦後を続けよう。「ブギウギ」最終週を惜しみながら、そんな思いを新たにしている。(現代教育行政研究会代表)

